

探訪 チャレンジ企業 64

小規模ながら商工会の支援で QMSを確立してISO9001認証取得 株式会社都大路：川北町

取引先の要求する製品を提供するために品質マネジメントシステム(QMS)を確立してISOの認証取得を目指す企業は多いが、取得に要する費用の問題や仕組みづくり、文書化等の事務作業など大きな負担を強いられることから断念する企業も少なくない。そうした中、従業員三人ながらISO認証取得を実現した企業が、今回紹介する川北町の株式会社都大路である。

「我が社は下請ではなく、型メーカー」と自負の念を込めて話す中村社長のもと、多くの鋳物業者を得意先に三十六年にわたり鋳造用木型・金型・樹脂型等を製造してきた。

十年程前には三次元CAD

CAM、立形マシンングセンターといったソフト、ハードを導入。六十一才を迎えた社長自身が使いこなし、自らQCDの向上に努めてきた。



中村社長

一 ISO認証取得に挑戦

そんな当社がISO認証取得に挑戦することになったキッカケは、取引先からの要請であった。最初は当社のように規模の小さい企業で取得できるか戸惑いもあったという。

ところが、当社と同規模の他社がISO認証取得したという話を聞きつけ、「よそでも取れたのなら、我が社でも」と、持ち前の向上心に火がついて、奮闘が始まる。

二 商工会の支援と若手の活躍

そこで大きな力になったのは、地元商工会の支援と、入社間もない若手社員の存在であった。

地元商工会に相談したところ、県連のエキスパートバンク制度を紹介された。その制度で派遣される専門家の指導を受けながら、若手社員が中心になって当

社に合った品質マネジメントシステムの構築とISO規格の要求事項に必要な準備作業を進めていった。

当初は、文書化等の作業が職人肌のベテラン社員には大変な負担であったというが、社長のリーダーシップの下、社員同士がお互いによく話し合いながら一つ一つクリアしていき、一年半という期間をかけて、今年七月、ISO9001の認証を取得した。

三 目的は取得ではなく、活かすこと

ISO認証取得過程で、社員間の交流が進んだことで意思の疎通が図られ、チームプレーの意識が高まり、技術伝承にも一役かかっているという。

対外的には、取引先からの評価や信用度が格段に高まり、同規模企業の先駆者の役割も果たせたというが、「取っただけでは意味がない。どう活かしていくか」と、今後どう受注に結び付けていくか、社長の手腕が問われる。



ISO認証取得

四 今後の課題は後継者育成

専門性を高めつつチーム力を発揮して、より仕事の幅を広げていくには、野球チームを作れるくらいの従業員規模が望ましいとのことだが、現在の厳しい受注環境では、規模を追うのは難しいのが現実である。目下の最大の課題は、当社の持つ技術をどう伝承していくか、後継者をどう育成していくかであるという。



本社の外観

五 カヌー作りという新たな取り組み

当社では新たな事業展開としてカヌー作りに取り組んでいる。

社長が若い頃からいつか作りたいことを夢見ていたというカヌー作りであったが、ある新聞記事でカヤックを手作りする記事を目にしてから、奥さんも協力を以て木製カヌー手作りプロジェクトが始動した。カヌー本体は、本業で培った技術を活かして、杉板を湾曲させながら木目の美



ご夫婦で楽しむカヌー

しさを残した表面処理が施された。作業は仕事の合間を縫って進められ、約半年かけて、手作りカヌーは完成を見た。

このカヌー作りは、趣味の延長に止まらず、当社にとっては、最終製品メーカーへの大きな第一歩という意味もあるといい、将来的には、カヌーを楽しむ人の裾野の拡大とともに、当社の柱にも育てていきたいと夢も膨らむ。

(お問い合わせ)

株式会社都大路

〒九二三-1127

石川県能美郡川北町橋新口

四〇一

TEL

〇七六-278-5111

URL: <http://niyakan.dreamblog.jp/>

(取材：県連合会)

経営支援課 西村 道博)

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。